

○危険な生きもの○

千葉県立中央博物館分館海の博物館発行 磯の生きもの観察会実施マニュアルP19～21 抜粋



●ハオコゼ（魚類） 全長 6cm

特徴：水深の浅い小さな潮だまりなどにも見られる小さな魚で、海藻の中を手探りしている場合などに刺されることがあります。

症状：背びれに毒のあるトゲがあり、刺されると痛みを感じ、傷口とその周辺が腫れ上がります。



●ゴンズイ（魚類） 全長 20cm

特徴：幼魚は昼間、群をなして浅瀬や潮だまりを泳ぎ、成魚も潮だまりにいます。堤防に捨てられたものを誤って踏みつけて刺される場合もあります。

症状：胸びれと背びれに毒のあるトゲを持ち、刺されると激しく痛みます。痛みは周囲に広がり、数日間続くこともあり、死亡例もあります。



●ウツボ（魚類） 全長 60cm

特徴：ヘビのように細長い体をしており、水深が深めの潮だまりなどに見られることがあります。昼間は岩のかけやすきまに多く、手を近づけて驚かせたりすると噛まれることがあります。

症状：毒はありませんが、歯が非常に鋭い上に、噛まれると抜けにくい構造になっており、大けがをします。



●ガンガゼ（棘皮動物） 殻の直径 6cm

特徴：非常に長く鋭いトゲを持っているウニで、岩の割れ目などに見られます。磯を歩いていて誤って踏みつけてしまうことがあります。

症状：トゲが非常に折れやすく、刺さると抜くのは困難です。また、トゲには毒があり、刺されると鋭い痛み、腫れ、炎症を起こし、麻痺を起こす場合もあります。



●ラッパウニ（棘皮動物） 殻の直径 10cm

特徴：短いトゲの間にラッパ状の叉棘が密生しており、それに触れると刺されます。深いところに多いウニですが、潮間帯で見られることもあります。

症状：刺されると、激しい痛み、筋肉の痛み、言語障害、顔面筋肉の麻痺、呼吸困難などを引き起こします。人によっては全く症状が出ない場合もあります。



●シロガヤ（刺胞動物） 高さ 7-20cm

特徴：クラゲやイソギンチャクと同じ仲間です。刺激を受けると体表に備えられた有毒な刺胞が発射され人を刺します。羽のような部分が白色で、潮間帯では下部の岩の表面に生えています。

症状：刺された瞬間に痛みを覚え、次第に痛みは強まり、かゆみも伴い、患部がみみず腫れになります。



●カツオノエボシ（刺胞動物） 気胞体の直径 10cm

特徴：浜に打ち上がると青いビニール袋のように見えます。長く伸びた触手にある刺胞が、激しく人を刺します。「電気クラゲ」と呼ばれ、お盆過ぎを中心に、大量に沿岸に打ち寄せられることがあります。

症状：乾いていても触手の部分に触れると刺されます。毒は強力で、刺されると激しい痛みを感じ、患部はみみず腫れになり、頭痛、吐き気、呼吸困難を起こし、ひどい場合には死に至ります。



●アカクラゲ（刺胞動物） 傘の直径 10cm

特徴：傘の部分に赤い放射状の模様があり、非常に長い触手を持っています。浜などに打ち上げられていることがよくあり、死んでいても触手の刺胞は人を刺します。

症状：触手に触れた部分に、強い痛みが走り、その後赤く腫れ、稀にけいれんを起こす場合もあります。

※その他、クラゲの仲間では、体が透明で、4本の長い触手を持つアンドンクラゲによる被害も多く見られます。



●ウミケムシ（環形動物） 長さ 8cm

特徴：ゴカイの仲間で、平たくなった体の両側に束になった剛毛が並んでおり、この部分が人を刺します。岩の裏などに隠れています。

症状：刺されると激しいかゆみとやけどのような症状を起こし、しびれを覚えることもあります。傷口は次第に腫れ、皮膚炎を起こします。1週間近く痛み続けることもあります。



●ベッコウイモガイ（軟体動物） 長さ 6cm

特徴：イモガイ類は餌となる動物に毒を持つ歯を発射し、これに人にも刺さります。南方に生息するアンボイナやタガヤサンミナシは特に毒が強く、死亡例もあります。房総半島には、これらより毒性の弱いベッコウイモガイが生息し、素手で触ると刺される場合があります。

症状：刺されると激しい痛みが起こり、しびれが患部から口や手足に広がります。吐き気やめまいなどを起こすこともあります。刺された直後には症状が出ない場合もあります。